

7-3

主題 口腔ケアへの取り組み

口腔ケア

副題 利用者の喜びを自分達の喜びにかえて

嚥下訓練

研究期間 6ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 中野友愛ホーム

発表者：介護職 永井美帆（ながい みほ）

アドバイザー：訪問歯科 歯科衛生士

共同研究者：介護職 諸越春奈（もろこし はるな）

電 話 03-3389-5515

メール k-tamura@m-yuuai.jp

FAX 03-5318-5992

URL

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人武蔵野療園を母体とする中野友愛ホームは、昭和53年4月に開設。特養定員 125 名、ショートステイ、デイサービス、グループホームが併設された施設です。

「自立・調和・創造」の精神のもと、時代に合った良質のサービスを継続して提供することを理念としています。

《研究前の状況と課題》

昨年口腔ケアの研修に参加し、そこで「嚥下体操」というものがあることを学びました。日々の日課にある「口腔ケアの時間」は「ハミガキをし、うがいをする」という位に考えていて、それ以上のことは考えていませんでした。自分たちの考えが甘かったことを実感し、職員間での口腔ケアに対する意識改革が必要だと思い、改めて勉強し直すことにしました。

《研究の目標と期待する成果》

目標 ⇒ 口腔ケアの意義、口腔の働きなどを学び、機能訓練を中心としたケアを取り入れ実践していく。

期待 ⇒ 職員の口腔ケアに対する意識レベルの向上を図る。

《具体的な取り組みの内容》

- ☆ ホーム内の訪問歯科の歯科衛生士さんによる、「唾液腺マッサージ」「顔面マッサージ」「アイスマッサージ」等の嚥下訓練の指導を受ける。
- ☆ 利用者の口腔状態を把握し、その利用者に合った口腔ケアのアドバイスを受ける。
- ☆ 嚥下状態に問題のある利用者の中から、二名を選び嚥下訓練を日課に取り入れる。
- ☆ A 様への取り組み
嚥下状態に問題があり、度々誤嚥を繰り返す。昨年、誤嚥性肺炎で入院となる。
- ☆ B 様への取り組み
嚥下状態に問題ないが、口の開きが非常に悪く、食事の時間が長くなってしまった。
次第に全量摂取も難しくなる。改善策として、食事前の「アイスマッサージ」を試みたらどうかとアドバイスを受け、取り入れることにした。

《取り組みの結果と評価》

- ☆ 初めての取り組みで最初は職員にも戸惑いが見られた。抵抗もあったが、根気強く続けることで、次第に利用者の反応もよくなっていった。
- ☆ 取り組みを通して、口腔ケアの方法や、重要性を学ぶことができ、職員にきちんと浸透していった。職員一人一人が積極的に取り組むようになった。
- ☆ 利用者が美味しそうに食べている姿、最初とは違った姿を見ることができ、職員みんなが「やって良かった」と思うことができた。また、利用者の笑顔や喜びを自分達の自分たちの自分達の喜びとして感じることもできた。

《まとめ》

実践を通して感じたことは、利用者の健康を守るために、どれだけ口腔ケアが重要であるかについての理解が職員間で深まったことです。職員に十分に浸透するまでには、まだまだ時間がかかるかも知れませんが、口腔ケアについて利用者にかかわる全ての人達が、同じ認識を持って進んでいくことが大切であることが分かりました。

利用者が最後まで自分の口で美味しく食事が食べれるように援助し、また QOL の向上、認知症の予防、リハビリの効果にも期待しながら、今後も口腔ケアに取り組んでいきます。

《提案と発信》

訪問歯科の歯科衛生士と連携して口腔ケアに取り組んだ中で、その意義を職員間で共通認識として捉えられた事は、今回の研究を通して得た成果のひとつと考えます。

口腔ケアに関してはその人にあったケアがあることが分かり、継続していくことが大切です。とりわけ顔面マッサージ、唾液腺マッサージ、アイスマッサージなどの嚥下訓練は効果が高い事がわかりました。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。